

新医第135号(業)
令和7年6月4日

郡市医師会長 様

新潟県医師会長
堂 前 洋一郎

百日せきの流行状況等を踏まえた、定期の予防接種の実施及び
沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンの安定供給に
係る対応について

このことについて、日本医師会より別添のとおり通知がありました。

現時点では五種混合ワクチンについては安定的に供給されていますが、このたび四種混合ワクチンが販売中止となったため、四種混合ワクチンを用いた第一期の予防接種を完了できない場合には、四種混合ワクチン及び乾燥ヘモフィルスb型ワクチンの残りの接種回数に留意しつつ、定期接種実施要領第2の1(15)に示す接種方法に準じ、五種混合ワクチンを用いて当該第一期の予防接種を完了することになります。

また、三種混合ワクチンの供給は従来の需要に見合った水準を維持しているものの、今般の百日咳の流行拡大に伴い、任意接種として急激な需要の増加(4月は例年の約5倍)により、5月から限定出荷の措置が講じられております。そのため、三種混合ワクチンにより定期接種を行うことも可能ですが、必要最低限とすることが求められているなど、ワクチンの供給ペースを考慮して必要に応じたワクチンの予約・注文をお願いするものです。

つきましては、貴会におかれましてもご承知いただきますとともに、貴会関係会員にご周知くださるようお願いいたします。

なお、本会では新潟大学小児科学教室の協力を得て、新生児や乳児を百日咳から守ることを目的とした妊婦やそのご家族向けの周知用リーフレットを作成いたしました。関係機関への周知や本会ホームページへの掲載を準備しているところですが、別添の厚生労働省通知のほか、予防接種推進専門協議会からワクチン不足の状況下における優先すべき接種対象者の考え方等を示した「百日咳流行に伴うワクチン接種に関するお願い」を併せてホームページへ掲載いたしますので、ご承知くださるようお願いいたします。



日医発第 326 号（健Ⅱ）

令和 7 年 5 月 23 日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

笹本 洋一

百日せきの流行状況等を踏まえた、定期の予防接種の実施及び
沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンの安定供給に係る対応について

今般、厚生労働省より各都道府県等衛生主管部（局）長宛標記の通知がなされるとともに、
本会に対しても周知方依頼がありました。

医療機関等に対する周知事項は下記のとおりです。

つきましては、貴会におかれましても下記の内容についてご了知のうえ、郡市区医師会及
び関係医療機関に対する周知方ご高配のほどお願い申し上げます。

記

- (1) ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎及び破傷風に対して行う第一期の定期接種については、令和 7 年 2 月 28 日付日医発第 2039 号（健Ⅱ）でお示ししたとおり、四種混合ワクチンの製造販売業者から同ワクチンの販売中止に関する連絡があったことを踏まえ、販売中止により四種混合ワクチンを用いて当該第一期の定期接種を完了できないことが予め見込まれる者については、四種混合ワクチン及び乾燥ヘモフィルス b 型ワクチンの残りの接種回数に留意しつつ、定期接種実施要領第 2 の 1（15）に示す接種方法に準じ、五種混合ワクチンを用いて当該第一期の定期接種を完了してください。（再周知）
- (2) 四種混合ワクチン及び乾燥ヘモフィルス b 型ワクチンの残りの接種回数に留意して接種を実施する等の事情のため、三種混合ワクチンを用いた接種を定期接種として取り扱うことは可能ですが、当該第一期の定期接種には五種混合ワクチンが使用できること及び今般の供給状況等を踏まえ、三種混合ワクチンを用いた接種は必要最低限としてください。
- (3) ワクチンの予約・注文を行う場合には、例えば、備蓄目的や前年同時期の使用実績よりも大幅に多い量の納入を求めること等、必要以上に多量の納入を求める予約・注文を行うことは慎んでください。また、ワクチンの予約・注文は、ワクチンの供給ペースを考慮することが望ましく、接種希望者から申込みがあった段階で必要に応じて行ってください。



事 務 連 絡
令和 7 年 5 月 19 日

公益社団法人日本医師会 御中

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課

百日せきの流行状況等を踏まえた、定期の予防接種の実施及び
沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンの安定供給に係る対応について

標記について、今般、別添のとおり、都道府県衛生主管部（局）等あてに通知を
発出したところです。

貴会におかれましては、別添について、貴管下の会員各位に対し周知するとともに、
定期接種の円滑な実施について、引き続き関係者との連携に努めていただきます
ようお願いいたします。

感 予 発 0519 第 1 号
令 和 7 年 5 月 19 日

各 { 都道府県
市 町 村
特 別 区 } 衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課長
(公 印 省 略)

百日せきの流行状況等を踏まえた、定期の予防接種の実施及び
沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンの安定供給に係る対応について

現在、百日せき等を対象疾病とした予防接種法に基づく第一期の定期接種には、沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオヘモフィルス b 型混合ワクチン（以下「五種混合ワクチン」という。）、沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ混合ワクチン（以下「四種混合ワクチン」という。）又は沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン（以下「三種混合ワクチン」という。）を用いることとされております。

現時点では、五種混合ワクチンについては安定的に供給されていますが、先般、四種混合ワクチンが販売中止となったため、ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎及び破傷風に対して行う第一期の定期接種において使用するワクチンについて、「四種混合ワクチンの販売中止に係る対応について」（令和 7 年 2 月 27 日付け厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課事務連絡）（以下「令和 7 年 2 月 27 日付け事務連絡」という。）において周知したところです。また、三種混合ワクチンについては、成人等への任意接種に用いることが可能であるため、国内での百日せきの感染者数の増加を受け、その需要が急激に高まっていることを踏まえ、別添のとおり、販売元の田辺三菱製薬株式会社から出荷量の調整（限定出荷）についての案内がなされております。厚生労働省においては、安定的な供給の確保や予防接種の適切な実施の観点から、三種混合ワクチンの製造販売業者である阪大微生物病研究会との間で前倒し出荷等についての調整を行っているところです。

これらのことを踏まえて、改めて、ワクチンの安定的な供給及び予防接種の円滑な実施等を図るため、医療機関等及び卸売販売業者に対して周知頂きたい事項を整理しましたので、貴管下市区町村、貴管内関係団体、関係医療機関、関係卸売販売業者等に対し、下記の点について徹底いただくよう対応をお願いいたします。

なお、同旨の事務連絡を公益社団法人日本医師会、一般社団法人日本医薬品卸売業連合会及び一般社団法人日本ワクチン産業協会あてに発出していますので申し添えます。

記

【医療機関等に対する周知事項】

医療機関等に対して、以下の点について周知等お願いいたします。

- (1) ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎及び破傷風に対して行う第一期の定期接種については、令和7年2月27日付け事務連絡(※)でお示ししたとおり、四種混合ワクチンの製造販売業者から同ワクチンの販売中止に関する連絡があったことを踏まえ、販売中止により四種混合ワクチンを用いて当該第一期の定期接種を完了できないことが予め見込まれる者については、四種混合ワクチン及び乾燥ヘモフィルスb型ワクチンの残りの接種回数に留意しつつ、定期接種実施要領第2の1(15)に示す接種方法に準じ、五種混合ワクチンを用いて当該第一期の定期接種を完了してください。(再周知)
- (2) 四種混合ワクチン及び乾燥ヘモフィルスb型ワクチンの残りの接種回数に留意して接種を実施する等の事情のため、三種混合ワクチンを用いた接種を定期接種として取り扱うことは可能ですが、当該第一期の定期接種には五種混合ワクチンが使用できること及び今般の供給状況等を踏まえ、三種混合ワクチンを用いた接種は必要最低限としてください。
- (3) ワクチンの予約・注文を行う場合には、例えば、備蓄目的や前年同時期の使用実績よりも大幅に多い量の納入を求めること等、必要以上に多量の納入を求める予約・注文を行うことは慎んでください。また、ワクチンの予約・注文は、ワクチンの供給ペースを考慮することが望ましく、接種希望者から申込みがあった段階で必要に応じて行ってください。

(※) 令和7年2月27日付け事務連絡

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001452649.pdf>

【卸売販売業者に対する周知事項】

卸売販売業者に対して、以下の点について周知等お願いいたします。

- (1) 三種混合ワクチンについて、ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎及び破傷風に対して行う第一期の定期接種において使用される状況もありうることから、定期接種の対象者への接種機会を確保するため、医療機関等からの予約・注文を受ける際に、当該第一期の定期接種での使用を目的とした三種混合ワクチンの注文を確認した場合には、当該注文に係るワクチンの供給を優先するようお願いいたします。また、在庫量を確認の上、必要な場合は、地域間、営業所間の在庫融通を行うとともに、必要に応じて都道府県及び市町村と連携するようお願いいたします。
- (2) 医療機関等からの予約・注文を受ける場合には、必要に応じてワクチンに関する在庫量等について情報提供を行ってください。また、医療機関等から注文を受ける際には、ワクチンの偏在が起らないように、医療機関等の在

庫を確認した上で、随時、必要量を供給してください。なお、新規開業により納入実績がないものの、予防接種を実施しようとする医療機関等から新たにワクチンの注文があった場合等に、当該医療機関等が不利とならないよう、配慮をお願いします。

【その他】

今後、ワクチンの需給が逼迫する事態が発生した場合には、必要に応じて、更なる安定供給対策の実施等について協力を依頼することがあります。

以上

(別添)

2025 年 5 月

医療機関各位

田辺三菱製薬株式会社

沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン
トリビック限定出荷について

謹啓 平素より弊社製品につきまして、格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、トリビックにつきまして通常 1～2 年に 1 ロットの出荷で需要に対応できておりましたが、今般の百日咳の流行拡大に伴う任意接種としての急激な需要の増加（4 月は例年の約 5 倍）により、安定供給が損なわれる可能性が生じたため、5 月 7 日（水）より限定出荷を開始させていただきます。

医療関係者の皆様、接種を希望される皆様に多大なるご迷惑をおかけすることとなり、心よりお詫び申し上げます。

何卒事情ご賢察の上、ご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

謹白

記

◆限定出荷の対象製品

統一商品コード	販 売 名	包 装
128-18271-8	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン トリビック	バイアル 0.5mL 1 本

出荷状況・対応状況

出荷量 : A プラス「出荷量増加」

対応状況 : ④「限定出荷（その他）」

限定出荷期間 : 5 月 7 日（水）から当面の間

日薬連発第 137 号をもとに記載致しました。

A プラス、出荷量増加：比較対象期間の出荷量*又は市場予測による予定出荷量と比較して概ね 110%以上の出荷状況

※比較対象期間の出荷量とは、原則として前年度（4 月～3 月）の月平均出荷量とする

◆問合せ先

田辺三菱製薬株式会社くすり相談センター

フリーダイヤル：0120-753-280

受付時間：9 時～17 時 30 分 （土日・祝日・弊社休日を除く）

以上

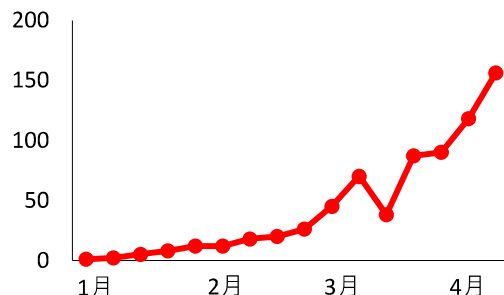
百日咳から赤ちゃんを守るために 妊婦さんに知ってほしいこと



2025年に入り、百日咳が国内で大流行しています

- 百日咳は、百日咳菌という細菌による感染症です。
- 赤ちゃん、特に新生児や乳児が罹患すると重症化しやすく、呼吸が一時的に止まる発作、肺炎、脳症などの合併症が起こることがあります。これらにかかると、適切な治療を行っても命を救うことができないことがあります。
- 2025年に入ってから、新潟県内を含む日本国内で百日咳が大流行しています。

新潟県内の百日咳患者数（2025年）



百日咳から赤ちゃんを守るためには



- 百日咳から守るために最も効果的な方法はワクチン接種です。
- 百日咳に有効なワクチンは3種混合・4種混合・5種混合ワクチンの中に含まれます。
- 赤ちゃんには生後2か月から、5種混合ワクチンを接種します。
- しかしながら、生後2か月未満の赤ちゃんにはワクチンを接種することができません。
- そのため、妊婦さんに3種混合ワクチンを接種し、百日咳に対する抗体を作り、その抗体が胎盤を通じて赤ちゃんに移行し、生後6か月未満の赤ちゃんが百日咳にかからないように、またかかった場合に重くなることを防ぐことができます。
- 国内では、沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン（トリビック®）が妊婦さんへ接種することができます。

3種混合ワクチンの接種推奨時期

- **妊娠27～36週**の期間に、3種混合ワクチン（トリビック®）を1回接種することで生後6か月未満の赤ちゃんの百日咳の発症や入院を予防できます。

3種混合ワクチンの安全性

- 3種混合ワクチンは生ワクチンではなく、不活化ワクチンですので、妊娠中でも接種することができます。
- 副反応として、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどの局所反応を生じることがあります。
- 海外では妊婦さんに対して百日咳を予防するワクチンの接種が行われていて、その安全性が証明されています。

🔪 **妊娠27-36週**での3種混合ワクチン接種

🔪 ワクチンについて迷っている方はかかりつけ医との相談

をお勧めします。

ワクチン接種は**生後6か月未満の赤ちゃんを百日咳から守る積極的な予防手段**です。ご家族でよく話し合い納得した上で接種することをお勧めします。

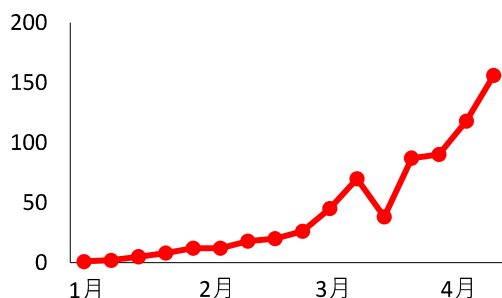
百日咳（ひやくにちせき）から 赤ちゃんを守るためにご家族ができること



2025年に入り、百日咳が国内で流行しています

- 百日咳は、百日咳菌という細菌による感染症です。
- 2025年に入ってから、新潟県内を含む日本国内で百日咳が大流行しています。

新潟県内の百日咳患者数（2025年）



百日咳は赤ちゃんでは重い病気となる ことがあります

- **新生児や乳児が百日咳にかかると重くなり**、呼吸が止まる発作、肺炎、脳症などの合併症が起こることがあります。この様な場合、適切な治療を行っても命を救うことができないこともあります。

小学校高学年から中学生の百日咳患者数が特に多くなっています

- 国内の定期接種では百日咳に対するワクチン（3種混合・4種混合・5種混合ワクチン）は1歳時の追加接種（4回目）が最後の接種です。4回接種しても、小学校に入る頃にはその免疫が低下しています。
- そのため、今年の新潟県内の百日咳流行でも小学校高学年から中学生の患者数が特に多くなっています。その親世代にあたる40代の患者数も多くなっています。
- ご兄弟、ご両親が百日咳に感染した場合、抵抗力がない赤ちゃんにうつることがあります。

百日咳はワクチンで予防できます

- ご兄弟、ご両親が3種混合ワクチンを接種することでご本人はもちろん、ワクチン未接種の赤ちゃんを百日咳から守ることができます。
- 国内では、沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン（トリビック®）が接種できます。
- 日本小児科学会は、小学校に入る前の1年間および11-12歳での接種を推奨しています。
- 副反応として、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。

① 小学校に入る前の1年間

② 11-12歳

での3種混合ワクチンの追加接種をお勧めします。
ご両親の3種混合ワクチンの追加接種もお勧めします。

ワクチン接種は**接種した人と重くなる可能性のある赤ちゃんを百日咳から守る積極的な予防手段**です。ご家族でよく話し合い、ご本人・ご両親が納得した上で接種することをお勧めします。接種を迷われている方はかかりつけの医師にご相談ください。